

■ 2-9 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

(1)幼稚園としての戦略

2019年10月より施行された幼児教育・保育の無償化により、0歳児から預かる保育園を保護者は選択する傾向が強まってきています。その結果、幼稚園間でも幼児の争奪競争が始まったと考えています。他園との差異化を図るためにも聖園マリア幼稚園の持つ特色を最大限に生かせる場を多く持ち、先ずは知っていただく必要があると考えています。聖園マリア幼稚園では「おいのり・親切・がまん・ありがとう」を大切にしよう園児に伝えていきます。心身のバランスのとれた成長を促すべく園児一人ひとりを育てる教育の創意工夫を心掛けていきます。

南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を心にとめながら文部科学省による教育要領（平成29年告示）に沿って教育内容を充実し、質の高い幼児教育を目指していきます。

今後は一層教職員一同、志を一つにして園児と保護者の心に寄り添う保育や教育課程を目指していきます。

●定員人数に沿った園児獲得の必要性

2020年度在園児は179人います。そのうち、スクールバスで登園する園児は113人と、バス利用率も63.1%です。現在は大型バス2台で運行（4コース走行）していますが、広い道路しか通ることができないので狭い道路を通ることができるような小型バスへの変更を検討します。バス台数やバスコースを増やすことによって園児獲得により影響を与えることができると考え、2022年度実施に向けて2021年度から検討していきます。

●IT化の便利さと必要性

社会の変化に伴うIT化の影響を受けながら保育や教育のより良い環境の整備を取組みます。そのためには、PCの教員1人1台の体制を構築し、遅刻欠席の連絡体制や指導要録等の電子化を進めます。

(2)教育・研究

- ・預かり保育の利用者の必要性に応え、受け入れ数を増やす可能性や利用時間を延ばす可能性を検討し、充実を図ります。
- ・園児の心身の成長、健全な人格形成を育むために体育指導、英語教室、宗教教育のカリキュラムを取り込みます。

(3)施設・設備

- ・定期的に業者と連携して情報収集を行うことで必要な修繕箇所の把握に努め、計画的な修繕に取り組むとともに、災害等によって緊急を要する修繕にも対応できるような体制を構築します。なお、出来る限り補助金の対象とすることの可能性も十分検討します。

(4)社会貢献

1. 子ども子育て支援事業「ひよこらんど」の開催

未就園児対象に「ひよこらんど」の計画を充実します。保育者に親近感を持ち気軽に相談できる場とするとともに保護者同士が子育ての苦労や喜びを分かち合う場として集えるように計画し充実を図ります。

2. 老人ホーム表敬訪問

敬老の日に合わせて年少児、年長児が聖心の布教姉妹会修道院・シニアホームを訪問し、他者の喜び

が自分の喜びにつながる経験をしていくことによって、他者のために生きることのよろこびにつながるように努めます。

3. 地域との連携行事

クリスマスの意味と世界に困窮している子ども達がいることを学び、毎日自分ができる献金によりカリタスジャパンを通して、世界の子どもの命が救われるという命の大切さを共有する教育を続けていきます。

(5)財政計画

- ・2020年度に Web ページを開設しました。その後の維持管理体制と発信するコンテンツの検討を随時行い、本園の特徴や取り組みを発信できる体制を整えて、園児募集につなげます。
- ・入園案内しおりに、本園の基本的な保育や教育理念、目標および目的を説明し、多くの利用者に情報を提供します。
- ・3歳未満児の受け入れ可能性を検討するとともに、そのため教員配置を配慮していきます。

(6)組織運営と人材育成

- ・執行部と教育職員との連携を高め、幼稚園運営が活性化するために2020年度から月1回程度の「執行部と学年リーダーとの協議会」を立ち上げて、月1回程度の意見交換を行います。
- ・活動をより円滑に実行するために、教員業務、用務業務、事務業務の整備を引き続き行うとともに、職員間のコミュニケーションの充実を図ります。
- ・適正な非常勤教諭の業務と時間数も検討します。
- ・職員の専門性を向上させるために、園内外研修計画を取組んでいきます。
- ・安定的な人材確保（専任教諭の離職率の改善）を取組んでいきます。